

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

170号 2015年7月26日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「伝道の幻により建てられた教会へ」

——フィリピの信徒への手紙第1章1節——

牧師 渡邊 義彦



キリスト・イエスの僕であるパウロとテモテから、フィリピにいて、キリスト・イエスに結ばれているすべての聖なる者たち、並びに監督たちと奉仕者たちへ。

(新共同訳聖書)

アジアの側から海を渡ってヨーロッパに福音が伝えられ伝道により建てられてゆく諸教会のうち、最初に建てられた教会がフィリピ教会でした。パウロが東から西へと海を渡ってヨーロッパの地をはじめて踏んでキリストという土台を据えた教会がフィリピ教会です。この伝道旅行でパウロはヨーロッパ、マケドニアに福音を伝道し教会を建ててゆきます。ギリシャの東海岸沿いを南下して次々に教会を建て、伝道旅行はアカイア地方、ギリシャ最大の商業都市コリントに至ります。

パウロがアジアの地を離れて、海を渡り、ヨーロッパの地に立つには大きな導きが必要でした。この導きは人間的に判断するなら決して快い導きではなかったはずですが。為ん方尽きて、車のドライバーなら、もうハンドルを手放して運転を放棄してしまいたいような気持ちであったのではないかと、思います。

パウロは、ヨーロッパに渡る直前まで行く手をことごとく塞がれるようにしてアジアの西の果ての港町トロアスへと下って来たのです。はじめパウロは伝道に有望な条件の整った大きな町に進むことを計画しましたが、ことごとく阻まれます。西アジア最大の都市エフェソ、進路を北に向け、黒海沿岸の有力都市、ミシア、ピディニアといった地方、黒海沿岸、ボスポラス海峡を挟んだアジア、ヨーロッパの交流が盛んな諸都市、どれも行く手を塞がれます。このところの事情を使徒言行録は、パウロの道を阻んだのが聖霊であり、キリストの霊であったと記しています。八方塞がりの状態で、唯一開かれた道が、その先は行き止まりとも思えるような西の果て、その先には海しかない港町トロアスへと下ることでした。神の御計画がわからないときは、立ちすくんでしまうかのような思いになり、唯一開かれている道は、とても暗く寂しい道であるかのように思い込んでしまいます。

海を目の前に道も尽きたかのような思いでトロアスに下り、パウロが見たのは、ひとつの幻でした。マケドニア人、つまり、海の向こう側に住んでいるギリシャの人がパウロの

幻に立って、マケドニアに渡って来て助けてもらいたい、福音を伝えてもらいたいと願うのを聞き見たのです。この幻を見てパウロは、すぐに船に乗り海を渡ります。このときに、これまでの八方塞がりのような状況の理由も、寂しく暗いと思えた細い道の本当の姿も、この道こそが備えられるべくして備えられた確かな道であったことも、この道を選ぶ以外になかったこともすべて了解されたに違いありません。

そして、ここから伝道に、医者であるルカが一緒になり加わります。ルカは信徒です。伝道チームに広がりを与えられます。第二伝道旅行の始まりに作られた、パウロ、シラス、そしてテモテという伝道者たちの伝道チームに、信徒であるルカが共に献身し加わります。海を渡り彼らが到着したのはアジアの対岸ネアポリスの港です。そして、使徒言行録は、ここからルカの筆により、主語を「彼ら」から「わたしたち」として記してゆきます。

パウロたちの伝道チームは、早速、ギリシャ・マケドニア州第一の都市フィリピに赴き伝道の好機を伺います。彼らは無鉄砲に福音を伝えることはしません。福音を受け入れる素地を持った人々が集うところをまず訪ねます。メシアを待ち望んでいる人たちが集っているところをまず訪ね、彼らに、あなたがたの待ち望んでいるメシアは、ナザレのイエスであり、この方こそまことの救い主であることを語って聞かせます。パウロたちが向かったのはユダヤ人の祈りの場です。ユダヤ人は聖書の言葉に生きてきました。メシアを待望してきました。同じ土台、真実な土台を共有し得る人たちです。あなたがたの待っている

メシアは、もう既にいらしたのだ、とパウロたちは彼らに語りはじめます。

この語りにおいて十字架の躓きは避けられません。十字架の躓きを薄めてしまうようにして伝えるならば福音の本質を伝え損ねます。歴史の悲惨に耐えうる信仰は十字架の躓きを避けないことではじめて誕生します。この語りにおいて復活の驚きは避けられません。しかし、ただおひとり復活してくださった方を伝えないわけにはゆきません。そうでなければ歴史の悲惨の中で潰されることのない真の希望を見出すことができないからです。復活の主キリスト、十字架の主イエスが、祈りを知っている民、聖書の言葉によって生きる幸いを知っている民にストレートに語り伝えられます。

ヨーロッパ伝道と教会建設はひとつの幻からはじまりました。マケドニア人の苦しみの叫びと、伝道に献身する伝道者たち、信徒たちの、神の召命への明確な応えと服従が新しく福音の根付く土地を明らかにしたのです。パウロたちは幻によって海を渡りました。そしてキリスト教会の基礎をフィリピにまず据えました。

パウロは、このフィリピの教会の人たちを、「フィリピにいて、キリスト・イエスに結ばれているすべての聖なる者たち」と呼びます。キリストの御名によって集められた者たちの中に、よみがえられたキリストがいてくださいます。キリストがいてくださるところに人々は集ってきます。そして、集ってきた人たちは知るので、ここには、世の他の何ものによっても代えることのできない方がいてくださる、と知るので。

「週報などの発送奉仕について」(牧会委員会)

澤村 幸子

礼拝堂入口の横に並んでいる週報ケースにはその日の週報や連絡物、案内など「現住陪餐会員」各人用の印刷物が入っています。礼拝欠席が続くと溜まった書類は2か月に一度発行の「教会報」に合わせてクロネコDM便でそれぞれのお宅へ送られます。教会報はそのほかに遠距離・海外在住の教会員や諸事情のために出席の難しい方々、元担任教師の先生方にも定期的に送られています。クリスマスの時期には早めに案内状を入れ、又年度初めには牧会委員全員の氏名に発送担当者の署名を付けて“おたより”を同封します。これらは全部合わせると150通近く、特別に協力をお願いしている8名の奉仕者と共に牧会委員会が受け持っている大切なご奉仕の一つです。

教会は、80年近い歴史を歩む間に、少数教の伝道時代から現在地に入手した家屋・土地を拡張しながら伝道に励み、柿ノ木坂教会として400名に近い受洗者を与えられてきた恵みを実感しております。しかし受洗後、勉強や仕事で多忙になったり、転勤転居、自分も含めて家族の病気、介護、老化などで教会生活をつづけることが困難になる方々が増えました。

「教会が遠くなった」と感じる方々に、少しでも励ましが届いているだろうかと案じること屢々です。そんな時に発送担当者に宛てて遠方の友から、“御礼状”が届いて一同で喜び合うことがあり励まされます。週報の献金者

名欄にいつも送っている先のお名前を見たり、クリスマス他特別献金を送ってくださる会員のお名前を知って胸を熱くすることもあります。最近届いた1通の手紙は「年をとって遠くへ出かけられなくなりました。近くにある教会を発見して楽しいお交わりに入れていただくようになりました」とありました。

私たちが送る「教会報」や諸印刷物を受け取られるお一人びとりに主イエス様からの呼びかけが届きますように。そして一人でも多くの兄弟姉妹が礼拝をともにする教会の群れとの連なりを深めることができますように、と祈ります。この小さな奉仕の陰には、多くの協力者がおられ、委員長を始め委員諸兄姉、その家族をも巻き込んだ細かい配慮や作業があることも感謝と共に付け加えたいと思います。

* 発送奉仕者 野辺田 頌子
発送奉仕をするようになり4~5年ほど経ちました。

宛名を書きながら、その方のことを思います。「お元気かしら?若い方?それとも私ぐらいの年齢の方かしら?」等いろいろ。毎週日曜礼拝に出席するだけでなく、少しでもお仕事させていただいて感謝しています。現在は教会の方が宛名シールを作ってくださいますので楽になりましたが、申し訳なく思っています。

「天に、宝をたくわえなさい」

上田 昌紀

¹⁹ あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。²⁰ むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

²¹ あなたの宝のある所には、心もあるからである。(マタイによる福音書 6:19~21)

私が小学生の時、両親は玉川平安教会の会員でしたので日曜学校に行くよう教えられ、3年くらい通いましたが、都立大学からわざわざ電車に乗って行くのが面倒なのと日曜学校が面白くなかったことなどで、中学生になって教会に行かなくなりました。高校に入った頃、両親が桜上水にある敷島教会へ転会したのに伴い、主日礼拝に連れて行かれ、2ヶ月に1回我家で行われる家庭集会にも出席することになりました。その頃から私の受洗に対する周囲のプレッシャーを意識するようになり、「洗礼」の意味も分からないまま、受洗から逃れる術はないかと、(本当は恵みであるのに)悩み苦しむ事態に陥りました。磯部敏郎牧師(敷島教会)の『信仰は自分を捨てて他人を立てる「自捨他立」の精神があれば誰でも持つことができる』『受洗は自分が決心することと思っているが本当は神様が背中を押してくださることのできるものだ』と仰る御言葉に導かれて、ようやく受洗したのは高校を卒業した1958年のイースターでした。

洗礼を受けてから、聖書をきちんと読むことにしました。新約聖書マタイによる福音書から読み始め、山上の説教の中にある左の聖句(6章20節:1954年改訳)を読んだ時、自分の生きる目的を見いだした気がいたしました。

教会生活、学校生活、家庭生活、何処でも何時でも、天にある宝をたくわえるために、自捨他立の精神で働くことはとても意義あることで、働けることがおおいなる恵みであると思うと、日々感謝で満たされるのです。

学校を卒業して会社に入ってから、生活の目的は常に天に宝をたくわえることでした。サラリーマン生活中は教会から離れていた時期もありました。そんな時ふと、自分の宝はどうなっているのか心配に(まるで預金を使い込んで残高が無い夢を見たように)なり、慌てて礼拝に出席して、『あなたの宝のある所には、心もあるからである。』と言う御言葉の通り、天にたくわえた宝を確かめました。

振り返ると、57年前にイエスキリストを見上げることも知らなかった私に洗礼を授けてくださった主のお恵みと、まことの宝の在りかを教えてくださった聖霊のお導きが無ければ今日の私は存在しない訳で、神の摂理の偉大さを敬い、恵みに感謝するものであります。今後も、与えられた健康と宝を、主の身体である教会形成のために奉げて、日々の生活に感謝し、務めを果たして行きたいと願っております。

ご紹介します

転入会の喜び

熊切 奈々瀬



この度、柿ノ木坂教会への転入会の恵みをいただき、感謝申し上げます。祖父母、両親の母教会であり、私の原点の教会ですので大きな喜びです。これまでの幾つかの契機を記し、自己紹介をさせていただきます。

私は、終戦の日を疎開先である青森県で迎えました。社会はまだ敗戦の色濃く混沌とし、私たち家族は東京に帰りますが、未来への不安と焦燥で過ごしている昭和23年、祖母に連れられ、柿ノ木坂教会の日曜学校に通い始めます。当時教会は、小さな部屋でしたが、小学生の私たちは大きな声でお祈りをし、讃美歌を歌いました。小川先生のお話のとおり神様が一緒にいて下さる安らぎの場でした。

代々、法曹関係の家で厳格に育てられましたが、クリスマス、イースターは、一家でお祝いするのが習わしでした。聖書の箇所は、いつも「ヨハネによる福音書 第1章」、讃美歌は「主われを愛す」、祖父母の長いお祈りの後は楽しいパーティです。

高校1年のクリスマス・イヴ、親友が自ら命を絶ちました。彼女は熱心なカトリック信仰者でした。深い哀しみと計り知れない疑問のなかで哲学書、宗教書を読み続け、彼女の環境条件も含めて、人が「生きる意味」の多様性を考えました。後に、大学で発達心理学を学ぶ動機になりました。

結婚、2児に恵まれます。夫の実家は日蓮宗の檀家でしたので教会には遠ざかりますが、母から送られるカードと「信徒の友」は楽しみでした。

1982年横浜に転居後、夫の会社関係の交際や私の仕事などで多忙のなか思いがけない病気の後、家族の人間関係に係る問題に直面し思い悩み聖書を手にも祈る日が続きました。近くの教会を探していた折も折、娘の恩師の紹介で玉川平安教会に通い始めます。当時は、南先生が退かれる少し前で無牧の時代に入りますが、松永希久夫先生、深町正信先生による説教のご奉仕がありました。松永先生には「信仰告白」のご教授をいただく恵みに与りました。私の心の渇きに恵みの水が注がれていくと感じる日々でした。

1987年春、小澤貞雄先生が与えられ、イースターに洗礼を授かることができました。その後、夫が病に倒れ介護生活が続きますが、夫は、小澤先生のご指導のもとクリスマスに受洗、6年後静かに天に召されました。

2006年国立教会へ転会。前年の娘婿の突然の交通事故で小学生の孫の世話の為娘の家での生活が始まります。重症でしたが、不思議なことに私には不安がありませんでした。神様はこれまで私を捉え導いてくださった、すべて委ねようと思いました。やがて、娘婿は退院し今日に至っています。

これまでの歩みを顧みますと、常にどんな時にも神様は共にいて守り導いてくださいました。離れがちになった時にも確と捕らえてくださいました。人知を超えた神様の愛に感謝し、主の御名を心から讃美する者でありたいと思います。渡邊先生、皆さま、ご指導のほど宜しくお願いいたします。

トピックス

講壇常備用大型聖書について

今年1月の定例長老会で、渡邊牧師より『礼拝堂講壇に備える大型聖書をお捧げしたい』との匿名の方からのお申し出があったことが報告されました。長老会では、「ご好意に感謝し、ありがたくお受けする」ことといたしました。

2月に匿名の方から15万円の献金が捧げられましたので、日本聖書協会へ製作発注をいたしました。

3月下旬に納入された、縦30cm、横22cm、厚さ9cmの特製大型聖書には、「日本基督教団 柿ノ木坂教会 2015年4月 復活日」と金文字が刻印されています。

4月5日の復活日礼拝から講壇上に常時置いて、礼拝堂の重要な備品として大切に使用させていただくことになりました。(長老会書記 上田昌紀)



「シロアムの園」説明会

7月12日の礼拝に、久しぶりに一時帰国した、ケニア在住の会員、公文和子さんが出席されました。礼拝後、階下の園舎で公文さんによる「シロアムの園」についての説明会が開かれました。これは姉妹が長く出席しているケニアの「コイノニア・ミニストリーズ教会」の事業の一つとして、小児科医としての公文さんが中心になって立ち上げた施設です。

ケニアの障害を持つ子供たちへの総合的なケアを行うことを目指しているそうです。

私たちの会員が海外でスタートさせた尊い活動を支え、祈って行きたいですね。(井澤)

右上：渡邊先生と並ぶ公文さん

下左：シロアムの園についての説明

下右：テーブルの上に並ぶのは、現地の人がバナナの皮で作ったというイエス降誕の場面。



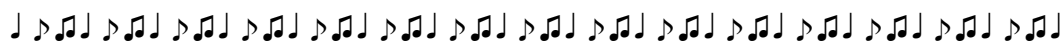
☆☆☆教会の行事☆☆☆

——今まであったこと——（定例行事は除く）

- ◇5月18日（月）いずみ会遠足。都立水元公園へ。
- ◇5月24日（日）午後3時から明治学院白金キャンパス礼拝堂で、明治学院・南支区共催のペンテコステの集いが開催された。柿ノ木坂教会の榊田恒長老の指揮、鷺晶子姉のオルガン伴奏で、南支区合同聖歌隊が奉唱した。
- ◇伝道月間
 - 6月7日（日）説教：柿ノ木坂教会 渡邊義彦牧師。
 - 6月13日（土）午後2時～3時半、チャーチコンサート。
西村光世（ハープ）、西村協（ジャズヴォーカル）。<下記写真参照>
 - 6月14日（日）説教：東京神学大学学長 芳賀力牧師。午後、芳賀先生を囲んで愛餐会。
 - 6月21日（日）説教：磐城教会 上竹裕子牧師。午後、上竹先生を囲んで愛餐会。
 - 6月28日（日）説教：柿ノ木坂教会協力牧師 松下恭規牧師。
- ◇6月28日（日）2014年度教会会計決算報告会。

——これからの予定——

- ◇教会学校サマープログラム
 - 7月26日（日）幼稚科デイキャンプ
 - 8月2日（日）～4日（火）丹沢サマーキャンプ
 - 8月30日（日）夕涼み会（予定）



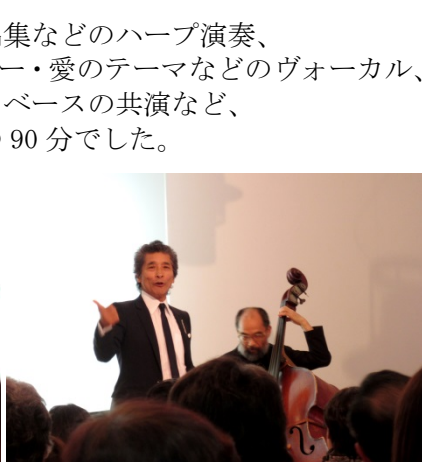
6月13日（土）のチャーチコンサートは

200人を超すお客様で、満員の盛況。

ハープとジャズ・ヴォーカルの姉弟による心癒されるひと時を楽しみました。



シャンパルティエの小品集などのハープ演奏、
スターダスト、ゴッドファーザー・愛のテーマなどのヴォーカル、
ハープとヴォーカル、ベースの共演など、
あっという間の90分でした。



今月のメッセージ

—8月のホームページ巻頭言から—

ホームページもご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com/>

主はモーセに言われた。「霊に満たされた人、ヌンの子ヨシュアを選んで、手を彼の上に置き、祭司エルアザルと共同体全体の前に立たせて、彼らの見ている前で職に任じなさい。あなたの権威を彼に分け与え、イスラエルの人々の共同体全体を彼に従わせなさい。」

(新共同訳聖書・民数記第27章18～20節)

息子に身長を越されて数年になります。中学生のとき、彼はわたしの背を追い越しました。わたしが父の身長を越えたのは高校生のときだった、と記憶しています。幼いときには見上げるように大きかった父と肩を並べられるようになったことはうれしかったですが、今にして思えば、中身はまだまだ伴っていません、と反省しきりです。

教会の週日の集会で旧約聖書を創世記から読みはじめて、夏明けには民数記を読み終えようというところまでやって来ました。レビ記、民数記と、なかなかひとりで読もうとす

ると骨の折れるところですが、出席者たちといっしょに読み進めてきて新しい発見がいくつもありました。

民数記は、エジプトから救い出されたイスラエルの民が、約束の地を目指しての40年の荒野の旅の中で世代交代してゆくのを記しています。冒頭に掲げた聖書箇所は、世代交代のほぼ最終の手続き、民の指導者の継承です。

モーセからヨシュアに指導者は引き継がれ、民はヨルダン川を渡り約束の地に入ります。

教会は、この民の姿にあるように、時代、時代に、世代交代をしてきました。けれども、それは単に世代交代に留まらず、教会の信仰が伝えられ継承されてゆく営みです。あらゆる年代に福音を伝えて教会の信仰を継承する人々を集めてゆきます。教会

は、これまでずっと、この単純な、しかし大きな事業を、神から委ねられて力を尽くしてきました。これからも、この営みは変わりません。(牧師 渡邊 義彦)



ヨシュアを後継者に指名するモーセ

——編集後記——

- ・6月の伝道月間には、多くの新来会の方々を迎えることができました。午後の愛餐会でもよいお話を聞くことができました。
- ・この号でも、新しく加わった転入会の姉妹のご紹介をすることができました。共に歩む姉妹が増えるのは嬉しいことです。
- ・欧米の教会などには必ずある、備え付けの大型聖書が寄贈されました。大切に使いましょう。
- ・教会報へのご意見・ご感想を編集委員まで、お寄せください。

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分
日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦